



### 長岡市 特定非営利活動法人UNE

◎農業のみならず生活面にも関与して地域を守る

長岡市一之貝。周囲は山、山、山。人口約300人という高齢化・過疎化集落で挑戦を続けているのが特定非営利活動法人UNE(ウネ)だ。2011年4月に創立してから、幻の餅米「大正餅」の生産、どぶろく「雪中巻乃界」の製造、農家民宿「ウネハウス」とレストラン「うねご飯」の運営、都市部との交流、ドイツワインの輸入販売など書き切れない事業を展開してきた。地域活動支援センターUNEHAUS(ウネハウス)と北荷埴・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会事務局も併設しており、職員やボランティアがユニバーサルな働き方を編み出して、健常者、高齢者、障がい者が分け隔てなく働いている。

UNEのおもしろさは農業関連の事業にとどまらず、「農村がどう生き抜くか」地域の生活面にも深く踏み込んでいる点だ。中でも地産地消ランチの「うねご飯」はコミュニティーの維持に欠かせない。一般客だけでなく、集落の高齢者

も食へに求るので多いと6人にもなる。外の人と会話することで刺激になったり、身だしなみにも気を付けたりと住民も張り合いがある。定期的に「買い物の日」「通院の日」が設定されていて、食後に送迎もする。

「UNEがあるから最後までここで暮らせると言われると一番うれしい。住み慣れた場所で、いかに楽しく、安心して暮らせるかを工夫していきたい。都会のようにいろんなものはないが、逆にやろうと思えば何でもできる」と代表の家老

洋さんは言う。◎新しいチャンス、良質なクロモジを商品化



「集落には「クロモジ」というダイヤの原石がある。漢字では「黒文字」と

作付力があると珍重されてきた。「養命酒」の主原料で、UNEも納品しているが、「山奥に入らなくても車から降りて3歩でクロモジがある。こんなに簡単に採れる場所はない」と言われている。

昨年からはさらに収益性の高い「クロモジ茶」の製造販売を始めた。生でも乾燥でも、花、葉、茎のどこでもお茶になる。開発者の田中弥生さんとUNE事務局次長の納谷光太郎さんは収穫体験&お茶づくりツアーを企画し、その素晴らしさを広く伝えている。

## 農村を生き抜く実験場



書き、お茶席でお菓子を食べるときに使うようじがその枝だ。香りが良く、気持ち落ち着かせる作用があり、漢方では古くから整腸

写真左から納谷さん、田中さん、家老さん。UNEとは、敵とともにU↓ユニバーサル、N↓農園、E↓越後の頭文字。家老さんは大学で農業を学び、ドイツに留学。帰国後は全国の選抜農業後継者を海外へ派遣・育成する事業に携わり、自身も7年間ドイツに滞在。北欧で見聞した福祉の充実ぶり、お金以外の幸せであふれる社会に感銘を受ける。故郷の長岡市に戻って市会議員となったが中越大地震が発生。社会的弱者が避難所へ行けずに取り残された現実を見て「やるべき事はこっちだ」と方向転換し、UNEの創立に至る

# 新潟

新潟県支局  
新潟県農業会議

新潟市中央区東中通1番町86番地  
JAバンク新潟県信連第2分室内  
025・223・2186